

保有する病棟と機能区分の選択状況(2015(平成27)年7月1日時点の機能)

病床の機能区分	病棟名				
高度急性期					
急性期	東館3階病棟	本館5階病棟			
回復期	東館2階病棟				
慢性期	本館3階病棟	本館4階病棟			
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答					

保有する病棟と機能区分の選択状況(6年が経過した日における病床の機能の予定)

病床の機能区分	病棟名				
高度急性期					
急性期	東館3階病棟	本館5階病棟			
回復期	東館2階病棟				
慢性期	本館3階病棟	本館4階病棟			
休棟中、休棟後の再開の予定なし、休棟・廃止予定、無回答					

分野ごとの情報

◆基本情報  
(職員配置、届出の状況など)

- ・病床の状況
- ・診療科
- ・入院基本料・特定入院料及び届出病床数
- ・DPC医療機関群の種類
- ・救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無
- ・在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況
- ・職員数の状況
- ・退院調整部門の設備状況
- ・医療機器の台数

◆患者の入退院等の状況

- ・入院患者の状況(年間)
- ・入院患者の状況(月間／入院前の場所・退院先の場所の状況)
- ・退院後に在宅医療を必要とする患者の状況
- ・看取りを行った患者数

◆医療内容に関する情報  
(手術、リハビリテーションの実施状況など)

- ・手術の状況
- ・がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況
- ・重食患者への対応状況
- ・救急医療の実施状況
- ・急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況
- ・全身管理の状況
- ・リハビリテーションの実施状況
- ・長期療養患者の受入状況
- ・重度の障害児等の受入状況

(留意事項)

○公表している項目の中には、診療報酬制度上で定められた診療行為の定義に従って集計した項目が多くありますが、その項目の解説については、  
医療関係者以外の方にも分かりやすい表現とする趣旨で記載しているため、診療報酬制度上の定義を詳細には記載していない場合があります。

○また、公表している項目の中には、個人情報保護の観点から、1以上10未満の値を「\*」で隠匿している項目があります。

## ◆基本情報（職員配置、届出の状況など）

### 病床の状況

		(項目の解説)					
一般 病床	許可病床  上記のうち医療法上の経過措置に該当する病床数  稼働病床	医療機関の病床(ベッド)は、法律(医療法)の許可を得た上で設置することとされており、許可を受けた病床のうち、過去1年間に実際に患者を受け入れた病床数を稼働病床数として示しています。					
		施設全体	東館3階病 棟 急性期	本館5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本館3階病 棟 慢性期	本館4階病 棟 慢性期
		113床	51床	32床	0床	0床	30床
		0床	0床	0床	0床	0床	0床
		113床	51床	32床	0床	0床	30床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		0床	0床	0床	0床	0床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		0床	0床	0床	0床	0床	0床

  

		(項目の解説)					
療養 病床	許可病床  うち医療 療養病床  うち介護 療養病床  稼働病床	なお、病室の広さは患者一人あたり6.4平方メートル以上と定められていますが、平成13年3月1日以前に許可を受けた医療機関は、6.4平方メートル未満でも可とされており、医療法上の経過措置に該当する病床として扱われます。  また、医療法では、病床のうち、主として長期にわたり療養を必要とする患者が入院するための病床を療養病床と呼んで区分しています。  療養病床の中には、医療保険を適用した医療サービスを提供するのではなく、介護保険を適用した介護サービスを提供する病床もあります。前者は医療療養病床、後者は介護療養病床と呼んでいます。					
		施設全体	東館3階病 棟 急性期	本馆5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本馆3階病 棟 慢性期	本馆4階病 棟 慢性期
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		0床	0床	0床	0床	0床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		85床	0床	0床	45床	40床	0床
		0床	0床	0床	0床	0床	0床

### 診療科

		(項目の解説)					
主とする診療科	複数ある場合、上位3つ	5割以上の患者を診療している診療科を、主とする診療科として示しています。5割を超える診療科がない場合は、上位3つの診療科を示しています。					
		施設全体	東館3階病 棟 急性期	本馆5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本馆3階病 棟 慢性期	本馆4階病 棟 慢性期
		内科	脳神経外科	脳神経外科	内科	脳神経外科	
		外科	内科	整形外科	脳神経外科	内科	
		整形外科	-	内科	整形外科	整形外科	

入院基本料・特定入院料及び届出病床数

		(項目の解説)				
		東北圏病院 急性期	東北圏病院 急性期	東北圏病院 回復期	本圏病院 慢性期	本圏病院 慢性期
算定する入院基本料・特定入院料	一般病棟10 対1入院基本料	一般病棟10 対1入院基 本料	一般病棟10 対1入院基 本料	回復期等ア ビリテーション 病棟10 対1入院基 本料	療養病棟入 院基本料2	障害者施設 等10対1入 院基本料
	届出病床数	51床	32床	45床	40床	30床
	病室単位の特定入院料	-	-	-	-	-
	届出病床数	0床	0床	0床	0床	0床
	病室単位の特定入院料	-	-	-	-	-
	届出病床数	0床	0床	0床	0床	0床
介護療養病床において療養型介護療養施設サービス費等の届出あり		0床	0床	0床	0床	0床

※入院基本料・特定入院料ごとのレセプト件数

一般病棟7 対1入院基本 料	0件	特定機能病 院一般病棟 7対1入院基 本料	0件	救命救急入 院料1	0件	小児特定集 中治療室管 理料	0件	地域包括ケ ア病棟入院 料1	0件	特殊疾患入 院医療管理 料	0件
一般病棟10 対1入院基本 料	161件	特定機能病 院一般病棟 10対1入院基 本料	0件	救命救急入 院料2	0件	新生児特定 集中治療室 管理料1	0件	地域包括ケ ア病棟入院 料2	0件	小児入院医 療管理料4	0件
一般病棟13 対1入院基本 料	0件	特定機能病 院特定病棟 13対1入院基 本料	0件	救命救急入 院料3	0件	新生児特定 集中治療室 管理料2	0件	特殊疾患病 棟入院料1	0件	地域包括ケ ア入院医療 管理料1	0件
一般病棟15 対1入院基本 料	0件	専門病院7 対1入院基 本料	0件	救命救急入 院料4	0件	新生児特定 集中治療室 管理料(母体・胎 盤)	0件	特殊疾患病 棟入院料2	0件	地域包括ケ ア入院医療 管理料2	0件
一般病棟特 別入院基本 料	0件	専門病院10 対1入院基 本料	0件	特定集中治 療室管理料1	0件	新生児特定 集中治療室 管理料(新 生兒)	0件	緩和ケア病 棟入院料	0件		
一般病棟特 定入院基本 料	0件	専門病院13 対1入院基 本料	0件	特定集中治 療室管理料2	0件	新生児治療 回復室人院 料	0件	特定一般病 棟入院料1	0件		
一般病棟入 院基本料 (療養病棟 入院基本料 1の例)によ る	*	専門病院特 定入院基本 料	0件	特定集中治 療室管理料3	0件	小児入院醫 疗管理料1	0件	特定一般病 棟入院料2	0件		
療養病棟入 院基本料1	0件	障害者施設 等7対1人 院基本料	0件	特定集中治 療室管理料4	0件	小児入院醫 疗管理料2	0件	特定一般病 棟入院料(地 域包括ケア入 院医療管理)	0件		
療養病棟入 院基本料2	41件	障害者施設 等10対1人 院基本料	20件	ハイケアユ ニット入院 医療管理料1	0件	小児入院醫 疗管理料3	0件	特定一般病 棟入院料(療 養病棟入 院基本料1の例) による	0件		
療養病棟特 別入院基本 料	0件	障害者施設 等13対1人 院基本料	0件	ハイケアユ ニット入院 医療管理料	0件	回復期リハ ビリテーション 病棟入院	43件	短期滞在手 術等基本料2	0件		
		障害者施設 等16対1人 院基本料	0件	脳卒中ケア ユニット入院 医療管理料	0件	回復期リハ ビリテーション 病棟入院	0件	短期滞在手 術等基本料3	*		
		障害者施設 等特定入院 基本料	*			回復期リハ ビリテーション 病棟入院	0件				

#### DPC医療機関群の種類

	(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
DPC医療機関群の種類	DPC制度とは、急性期の入院医療を扱う医療機関において、患者に対し、入院日数に応じた1日あたり定額の医療費を請求する制度です。この項目は、DPC制度の対象となる病院の特性を示すもので、特性や疾患等に応じて1日あたりの医療費の設定が異なります。I群が大学病院本院、II群が大学病院本院に準じる病院、III群がそれ以外の病院であることを示します。	DPCではない					

#### 救急告示病院、二次救急医療施設、三次救急医療施設の告示・認定の有無

	(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
救急告示病院の告示の有無	救急告示病院とは、事故や急病等による救急患者を救急隊が緊急に搬送する医療機関として、都道府県知事が認めた病院です。また、救急患者のうち、入院医療が必要な重症な救急患者を休日や夜間に受け入れる医療機関を二次救急医療施設といいます。さらに、二次救急では対応できない重篤な救急患者を24時間体制で受け入れる医療機関を三次救急医療施設と呼びます。	有					
二次救急医療施設の認定の有無		有					
三次救急医療施設の認定の有無		無					

#### 在宅療養支援病院、在宅療養後方支援病院の届出状況

	(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
在宅療養支援病院の届出の有無	在宅療養支援病院とは、24時間往診が可能な体制を確保し、また訪問看護ステーションとの連携により24時間訪問看護の提供が可能な体制を確保している病院のことです。	無					
在宅療養後方支援病院の届出の有無	在宅療養後方支援病院とは、在宅医療を受けている患者の急変時に備え、緊急入院を受け入れるための病床を確保している病院です。	無					

## 職員数の状況

		(項目の解説)					
		施設全体	未認知病納 急性期	未認知病納 急性期	未認知病納 回復期	未認知病納 慢性期	未認知病納 慢性期
看護師	常勤	92人	23人	19人	16人	8人	14人
	非常勤	6.1人	2.4人	2.1人	0.0人	0.0人	0.0人
准看護師	常勤	13人	4人	0人	1人	3人	3人
	非常勤	0.6人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
看護補助者	常勤	49人	8人	7人	11人	13人	7人
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
助産師	常勤	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
理学療法士	常勤	18人	0人	0人	4人	0人	0人
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
作業療法士	常勤	14人	0人	0人	2人	0人	0人
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
言語聴覚士	常勤	4人	0人	0人	1人	0人	0人
	非常勤	0.8人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
薬剤師	常勤	4人	0人	0人	0人	0人	0人
	非常勤	0.6人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
臨床工学技士	常勤	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人

		(項目の解説)			施設全体		
		病棟以外の部門	手術室	外来部門	その他		
看護師	常勤	4人	1人	7人			
	非常勤	0.0人	1.6人	0.0人			
准看護師	常勤	1人	1人	0人			
	非常勤	0.0人	0.6人	0.0人			
看護補助者	常勤	2人	0人	1人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人			
助産師	常勤	0人	0人	0人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人			
理学療法士	常勤	0人	0人	14人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人			
作業療法士	常勤	0人	0人	12人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人			
言語聴覚士	常勤	0人	0人	3人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.8人			
薬剤師	常勤	0人	0人	4人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.6人			
臨床工学技士	常勤	0人	0人	0人			
	非常勤	0.0人	0.0人	0.0人			

## 退院調整部門の設置状況

			(項目の解説)					
			施設全体	東部3階病 急性期	本部5階病 急性期	東部2階病 回復期	本部3階病 慢性期	本部4階病 慢性期
退院調整部門の有無			有					
退院調整部門に勤務する人数	医師	専従		0人				
	専任			0.0人				
	看護職員	専従		0人				
	(参考)MSW(メディカルソーシャルワーカー)			0.4人				
	MSW	専従		2人				
	専任			0.0人				
	MSWのうち社会福祉士	専従		2人				
事務員	専従			0.0人				
	専任			0人				
	その他	専従		0人				
その他	専任			0.0人				

## 医療機器の台数

			(項目の解説)					
			施設全体	東部3階病 急性期	本部5階病 急性期	東部2階病 回復期	本部3階病 慢性期	本部4階病 慢性期
CT	スマ ラ イル イチ ス	64列以上	CTは、X線(放射線)を使って、身体の断面を撮影する装置です。列の数が多いほど、同じ範囲をより短時間、より細かく撮影することができます。値は医療機関が保有する台数です。	1台				
		16列以上64列未満		0台				
		16列未満		0台				
	その他			0台				
MRI	3T以上		MRIは、主に磁気を利用して、身体の断面を撮影する装置です。T(テスラ)は、磁気の強さを表す単位で、値が大きいほど高画質の画像が得られます。値は医療機関が保有する台数です。	1台				
	1.5T以上3T未満			0台				
	1.5T未満			0台				
その他	血管連続撮影装置		血管連続撮影装置は、X線では映らない、血管の状態を撮影するための装置です。値は医療機関が保有する台数です。	1台				
	SPECT		SPECTは、特殊な薬剤を注射したあとに撮影することで、体のなかの血液の分布を調べる装置です。とくに、脳血管障害や心疾患の診断に用いられます。値は医療機関が保有する台数です。	0台				
	PET			0台				
	PETCT		PETCTは、診断の精度を向上させるためにPETとCTを組み合わせた装置です。値は医療機関が保有する台数です。	0台				
	PETMRI		PETMRIは、診断の精度を向上させるためにCPETとMRIを組み合わせた装置です。値は医療機関が保有する台数です。	0台				
	強度変調放射線治療器		強度変調放射線治療器は、腫瘍に精确に放射線を照射する装置です。値は医療機関が保有する台数です。	0台				
	遠隔操作式密封小線源治療装置		遠隔操作式密封小線源治療装置は、体の内側から放射線を照射する機能を持つ装置です。値は医療機関が保有する台数です。	0台				

[TOPへ戻る](#)

## ◆患者の入退院等の状況

### 入院患者の状況(年間)

年 間	(項目の解説)		平成26年7月から平成27年6月までの1年間に入院、退院した患者の状況を示す項目です。	施設全体	東館3階病 棟 急性期	本館5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本館3階病 棟 慢性期	本館4階病 棟 慢性期
	新規入棟患者数(年間)	うち予定入院の患者・院内の他病棟からの転棟患者			1,653人	903人	422人	178人	20人
		うち救急医療入院の予定外入院の患者			548人	156人	70人	177人	16人
		うち救急医療入院以外の予定外入院の患者			536人	342人	189人	1人	3人
	在棟患者延べ数(年間)				569人	405人	163人	0人	0人
	退棟患者数(年間)				61,511人	15,668人	9,447人	13,773人	12,132人
					1,681人	909人	426人	189人	21人

### 入院患者の状況(月間／入院前の場所・退院先の場所の状況)

1 ケ 月 間	(項目の解説)		平成27年6月の1か月間に入院を受け入れた患者の入院前の場所、退院した患者の退院先の場所を示す項目です。	施設全体	東館3階病 棟 急性期	本館5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本館3階病 棟 慢性期	本館4階病 棟 慢性期
	新規入棟患者数(1ヶ月間)	うち院内の他病棟からの転棟			125人	77人	29人	10人	8人
	入 棟 前 の 場 所	うち家庭からの入院			24人	1人	4人	10人	8人
		うち他の病院、診療所からの転院			90人	68人	22人	0人	0人
		うち介護施設、福祉施設からの入院			6人	5人	1人	0人	0人
		うち院内の出生			5人	3人	2人	0人	0人
	退棟患者数(1ヶ月間)	その他			0人	0人	0人	0人	0人
退 棟 先 の 場 所	うち院内の他病棟へ転棟	132人	77人	28人	16人	11人	0人	0人	0人
	うち家庭へ退院	25人	10人	10人	4人	1人	0人	0人	0人
	うち他の病院、診療所へ転院	82人	50人	14人	10人	8人	0人	0人	0人
	うち介護老人保健施設に入所	12人	7人	2人	2人	1人	0人	0人	0人
	うち介護老人福祉施設に入所	5人	3人	1人	0人	1人	0人	0人	0人
	うち社会福祉施設・有料老人ホーム等に入所	1人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち終了(死亡退院等)	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
退 院 患 者 数 (1ヶ月間)	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

### 退院後に在宅医療を必要とする患者の状況

退 院 患 者 数 (1ヶ月間)	(項目の解説)		平成27年6月の1か月間に退院した患者に対する、在宅医療の提供の必要性に関する項目です。	施設全体	東館3階病 棟 急性期	本馆5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本馆3階病 棟 慢性期	本馆4階病 棟 慢性期
	退院後1か月以内に自院が在宅医療を提供する予定の患者数	退院後1か月以内に他施設が在宅医療を提供する予定の患者			107人	67人	18人	12人	10人
		退院後1か月以内に在宅医療を必要としない患者(死亡退院含む)			9人	0人	0人	3人	6人
		退院後1か月以内に在宅医療の実施予定が不明の患者			3人	1人	1人	0人	0人
		退院後1か月以内に在宅医療を必要としない患者(死亡退院含む)			95人	66人	17人	9人	3人

### 看取りを行った患者数

※在宅療養支援病院の届出を行っている病院のみが報告する事項です。

		(項目の解説)					
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関以外での看取り数(年間)		施設全体	東期3階病 + 急性期	本期3階病 + 急性期	東期2階病 + 回復期	本期3階病 + 慢性期	本期4階病 + 慢性期
うち自宅での看取り数		0人					
うち自宅以外での看取り数							
直近1年間で在宅療養を担当した患者のうち、医療機関での看取り数(年間)		0人					
うち連携医療機関での看取り数							
うち連携医療機関以外での看取り数							

[TOPへ戻る](#)

## ◆医療内容に関する情報（手術、リハビリテーションの実施状況など）

### 手術の状況

		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本館5階病 急性期	東館2階病 回復期	本館3階病 慢性期	本館4階病 慢性期
手術総数	皮膚・皮下組織	手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	24件	*	*	*	*	*
	筋骨格系・四肢・体幹			*	*	*	*	*
	神経系・頭蓋			*	*	*	*	*
	眼			0件	0件	0件	0件	0件
	耳鼻咽喉			*	*	*	*	*
	顔面・口腔・頭部			0件	0件	0件	0件	0件
	胸部			*	*	*	*	*
	心・肺管			0件	0件	0件	0件	0件
	腹部			10件	10件	10件	10件	10件
	尿路系・副腎			*	*	*	*	*
	性器			0件	0件	0件	0件	0件
	歯科			0件	0件	0件	0件	0件
全身麻酔の手術件数	皮膚・皮下組織	全身麻酔を用いて手術を受けた患者数と、手術の対象となった臓器別の患者数です。	*	0件	0件	0件	0件	0件
	筋骨格系・四肢・体幹			0件	0件	0件	0件	0件
	神経系・頭蓋			*	*	*	*	*
	眼			0件	0件	0件	0件	0件
	耳鼻咽喉			0件	0件	0件	0件	0件
	顔面・口腔・頭部			0件	0件	0件	0件	0件
	胸部			0件	0件	0件	0件	0件
	心・肺管			0件	0件	0件	0件	0件
	腹部			0件	0件	0件	0件	0件
	尿路系・副腎			0件	0件	0件	0件	0件
	性器			0件	0件	0件	0件	0件
	歯科			0件	0件	0件	0件	0件
胸腔鏡下手術		胸部を切り開くことはせず、胸部に開けた小さな穴から、胸部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「きょくつきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件
腹腔鏡下手術		腹部を切り開くことはせず、腹部に開けた小さな穴から、腹部用の内視鏡などの器具を入れて行う手術で「ふくくうきょうかしゅじゅつ」と読みます。値はこの手術を行った患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件
内視鏡手術用支援機器加算		内視鏡手術ロボットを用いて前立腺がん手術を行った患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件

がん、脳卒中、心筋梗塞、分娩、精神医療への対応状況

(がん)		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
悪性腫瘍手術		がんを取るための手術です。値は手術を行った患者数です。	0件					
病理組織標本作製		患者の身体から採取した細胞や組織等を観察し、病気の確定診断をすることを病理診断といいます。病気の早期発見や治療方針の選択、治療効果の判定等にも役立ちます。値は病理診断に必要な標本(細胞の組織片等)を作成した患者数です。	*					
術中迅速病理組織標本作製		病気の良性・悪性的判断や切除範囲を決めるため、手術中に病理診断をすることを術中迅速診断といいます。そのための病理組織標本作製を、手術中に行った患者数です。	0件					
放射線治療		がんに放射線を当てる(照射する)ことで、がんを縮小させる治療を放射線治療といいます。値は放射線治療を行った患者数です。	0件					
化学療法		化学療法は、抗がん剤によりがんを殺したり、小さくしたりする治療法です。値は化学療法を行った患者数です。(ここでいう抗がん剤とは、総務大臣が定める日本標準商品分類における「8742 腫瘍用薬」に指定されている医薬品のことを持します。)	*					
がん患者指導管理料1及び2		がんの患者が、診断結果や治疗方法を理解し、納得のいく治療方針を選択できるよう、専門的な研修を受けた医師や看護師が、文書での説明や相談、指導を行っていることを示す項目です。値は相談や指導を行った患者数です。	0件					
抗悪性腫瘍剤局所持続注入		がんの患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)等を用いて動脈や静脈等に抗がん剤を持続的に注入する治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件					
肝動脈塞栓を伴う抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入		肝臓がんの患者に対し、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて肝動脈内に抗がん剤を投与する治疗方法を、抗悪性腫瘍剤肝動脈内注入といいます。同時に、動脈の血流を遮断する物質を注入することで、肝臓のがんを殺す治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件					
(脳卒中)		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
超急性期脳卒中加算		脳梗塞の患者に対し、発症後速やかに薬剤を投与して血栓を溶かす治療を行ったことを示す項目です。値はこの治療を行った患者数です。	0件					
脳血管内手術		脳血管内手術は、脳動脈瘤等の患者に対し、頭蓋骨を切り開く開頭手術をせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて脳の血管の内側から患部を治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件					
(心筋梗塞)		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
経皮的冠動脈形成術		経皮的冠動脈形成術は、狭窄症や心筋梗塞等の患者に対し、胸部を切り開く開胸手術をせず、カテーテル(細い管状の医療器具)を用いて心臓の冠動脈を血管の内側から治療する手術です。値はこの手術を行った患者数です。	0件					
(分娩)		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
分娩件数(正常分娩、帝王切開を含む、死産を除く)		分娩を行った患者数です。	0件	0件	0件	0件	0件	0件
(精神医療)		(項目の解説)	施設全体	東臨3階病 急性期	本臨5階病 急性期	東臨2階病 回復期	本臨3階病 慢性期	本臨4階病 慢性期
入院精神療法( I )		入院精神療法は、精神疾患の患者に対し、治療計画に基づいて患者の精神面に対して施す治療です。値はこの治療を行った患者数です。	0件					
精神科リエゾンチーム加算		精神疾患の患者に対し、精神科医や専門の看護師等が共同し、多職種チームとして診療を行っていることを示す項目です。値はこうした診療を行った患者数です。	0件					

## 重症患者への対応状況

(項目の解説)	施設全体	東期3階病 急性期	本期3階病 急性期	東期2階病 回復期	本期3階病 慢性期	本期4階病 慢性期
ハイリスク分娩管理加算	0件					
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ)	0件					
救急搬送診療料	0件					
観血的肺動脈圧測定	0件					
持続緩徐式血液濾過	0件					
大動脈バルーンパンピング法	0件					
経皮的心肺補助法	0件					
補助人工心臓・植込型補助人工心臓	0件					
頭蓋内圧持続測定(3時間を超えた場合)	0件					
人工心肺	0件					
血漿交換療法	0件					
吸着式血液浄化法	0件					
血球成分除去療法	0件					
「7対1入院基本料」、「10対1入院基本料」、「看護必要度加算」、「一般病棟看護必要度評価加算」、「急性期看護補助体制加算」、「看護職員夜間配置加算」、「看護補助加算」の届出を行っている場合における、	医療・看護処置の必要性(A得点)や身体機能の状況(B得点)を共通の評価票を用いて評価しています。 割合が高いほど、必要な医療処置やケアの程度が高い患者が多いことを示します。					
A得点2点以上の患者割合	23.4%	27.8%				
B得点3点以上の患者割合	48.2%	64.3%				
重症度・医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	17.1%	27.5%				
「地域包括ケア病棟入院料」、「地域包括ケア入院医療管理料」の届出を行っている場合における、一般病棟用の重症度・医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合						
A得点2点以上の患者割合						
B得点3点以上の患者割合						
重症度・医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合						
「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の届出を行っている場合における、一般病棟用の重症度・医療・看護必要度の基準を満たす患者の割合						
A得点2点以上の患者割合	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%	
B得点3点以上の患者割合	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	77.8%	
重症度・医療・看護必要度の評価において、A得点2点以上かつB得点3点以上の患者割合	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%	22.2%	

## 救急医療の実施状況

(項目の解説)		施設全体	来院3箇月以内 急性期	小窓3箇月以内 急性期	来院2箇月以内 回復期	小窓3箇月以内 慢性期	小窓3箇月以内 慢性期
院内トリアージ実施料	夜間や休日、深夜に受診した救急患者に対し、その緊急度に応じて、診療の優先順位付け(院内トリアージ)を行っていることを示す項目です。値はトリアージを行った患者数です。	*					
夜間休日救急搬送医学管理料	夜間や休日等の救急搬送に対応していることを示す項目です。値は、深夜、休日等に救急車や救急医療用ヘリコプター等で搬送され、診療を行った患者数です。	15件					
精神科疾患患者等受入加算	夜間や休日等に救急搬送される急性薬物中毒の患者に対応していることを示す項目です。値は、夜間や休日等に搬送された患者のうち、過去6月以内に精神科の受診歴がある患者や、急性薬物中毒(アルコール中毒は除く)と診断された患者数です。	0件					
救急医療管理加算1及び2	意識障害、昏睡等の重篤な状態の患者の緊急入院を受け入れていることを示す項目です。値は休日又は夜間に緊急入院し、救急医療を行った患者数です。	44件					
在宅患者緊急入院診療加算	在宅での療養中に病状が急変し、入院が必要となった場合に、患者の意向を踏まえた医療が引き続き提供されるよう、他の医療機関と連携する取組を行っていることを示す項目です。値は、他の医療機関の求めに応じて緊急入院を受け入れた患者数です。	0件					
救急搬送患者地域連携紹介加算	医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、緊急入院で受け入れた患者を、連携先の医療機関に転院させた人数です。【関連:救急搬送患者地域連携受入加算】	0件					
休日に受診した患者延べ数	休日(日曜、祝日、年末年始)に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	12,812人					
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		193人					
夜間・時間外に受診した患者延べ数	夜間・時間外(医療機関が表示する診療時間以外の時間(休日を除く))に受診した患者数と、そのうち診療後にただちに入院が必要となった患者数です。	2,236人					
うち診察後直ちに入院となった患者延べ数		181人					

救急車の受入件数	救急車や救急医療用ヘリコプター等により搬送され受け入れた患者数です。	1,148件	
救命のための気管内挿管	気管内挿管は、気道確保を行うためのチューブ等を口や鼻から挿入する処置です。値は救命措置として気管内挿管を行った患者数です。	0件	
体表面ペーシング法又は食道ペーシング法	体表面・食道ペーシング法は、胸部または食道内に電極をおき、電極を介して心臓を電気刺激する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
非開胸的心マッサージ	非開胸的心マッサージは、胸部を開く等の手術を伴わない、一般的な心臓マッサージを行う処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
カウンターショック	カウンターショックは、心停止した患者に対し、AEDや専門の医療機器等を用いて、心臓に電気ショックを与え、正常な状態に戻す処置です。値は処置を行った患者数です。	*	
心膜穿刺	心膜穿刺は、心臓を覆う心膜に針等を刺し、心臓に貯まつた水を排出する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
食道圧迫止血チューブ挿入法	食道圧迫止血チューブ挿入法は、食道静脈瘤からの出血に対し圧迫止血の目的でチューブを挿入する処置です。値は処置を行った患者数です。	0件	
地域連携診療計画管理料	大腿骨頸部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担う地域の医療機関や介護施設が治療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のもと、他の医療機関や介護サービス事業所に転院・退院させた患者数です。【関連：地域連携診療計画退院時指導料（1）】	0件	

## 急性期後の支援、在宅復帰の支援の状況

	(項目の解説)	施設全体	東日本地区 急性期	東日本地区 急性期	東日本地区 回復期	東日本地区 慢性期	東日本地区 慢性期
救急・在宅等支援(療養)病床初期加算及び有床診療所一般病床初期加算	急性期の治療を終え、状態がある程度安定した患者や、自宅・介護施設等での療養中に発熱などにより、入院が必要となった患者を受け入れる取組を行っていることを示す項目です。値はこうした患者を受け入れた数です。	10件					
救急搬送患者地域連携受入加算	医療機関間の連携により、救急医療機関の負担を軽減し、緊急入院を円滑に受け入れるための取組を行っていることを示す項目です。値は、他の救急医療機関に緊急入院した患者の転院を受け入れた人数です。【関連：救急搬送患者地域連携紹介加算】	0件					
地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)	大腿骨頸部骨折や脳卒中の患者について、転院・退院後の治療を担当する医療機関や介護施設が診療計画を共有し、連携して診療・ケアに取り組んでいることを示す項目です。値は、診療計画のものと、連携先の医療機関から患者を受け入れ診療を行った人数です。【関連：地域連携診療計画管理料】	0件					
退院調整加算1(一般病棟入院基本料等)	退院後に十分な介護を提供できる体制がない等、退院が困難な状況にある患者に対して、社会福祉士等が退院における計画を策定し、必要な支援をしていることを示す項目です。値は退院支援を行った患者数です。	11件					
退院調整加算2(療養病棟入院基本料等)	退院時に在宅で療養する患者について、入院している医療機関の医師等が退院後の在宅医療を担う医師や訪問看護事業所等の看護師等と連携し、共同で患者に指導や説明を行っていることを示す項目です。値は、患者が入院している医療機関が、指導や説明を行った患者数です。	*					
介護支援連携指導料	退院後に導入することが望ましい介護サービス等について、入院中の医療機関と介護支援専門員(ケアマネージャー)が連携し、共同で指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	*					
退院時リハビリテーション指導料	退院の際に患者に対し、病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、リハビリテーションの観点から指導や説明を行っていることを示す項目です。値は指導や説明を行った患者数です。	18件					
退院前訪問指導料	入院期間が1ヶ月を超えると見込まれる患者に対し、円滑に退院できるよう、患者の家に訪問した上で、その病状や退院後に生活する家屋の構造、介護力等を考慮し、在宅での療養に必要な指導を行っていることを示す項目です。値は指導を行った患者数です。	0件					

## 全身管理の状況

(項目の解説)

	施設全体	東日本圏内 急性期	東日本圏内 慢性期	東日本圏外 回復期	東日本圏外 慢性期	全国平均 慢性期
中心静脈注射	中心静脈注射は、薬剤や栄養を長時間、安定的に供給する目的等で、血液量が多く流れもし心臓近くにある太い静脈(中心静脈)に注射する行為です。値はこの注射を行った患者数です。	26件				
呼吸心拍監視	呼吸心拍監視は、重篤な心機能障害や呼吸機能障害をもつ患者に対し、その呼吸や心拍数の状況を持続的に監視する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	100件				
酸素吸入	酸素吸入は、呼吸器疾患等で酸素が欠乏した状態の患者に対し、高濃度の酸素を吸入させる処置です。値はこの処置を行った患者数です。	61件				
観血的動脈圧測定(1時間を越えた場合)	観血的動脈圧測定は、重症患者の血圧観察のために、動脈に管を挿入し、持続的に血圧を測定する検査です。値はこの検査を行った患者数です。	0件				
ドレン法、胸腔若しくは腹腔洗浄	ドレン法は、手術後等の患者に対して、脇腹や腹部等に管を入れ、体内に溜まった消化液、膿、血液や浸出液などを体外に排出する処置です。胸腔・腹腔穿刺は、脇腹、腹部に針を刺し、洗浄、注入および排液をする処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	20件				
人工呼吸(5時間を超えた場合)	人工呼吸は、呼吸の力が弱くなった患者に対し、機器を使って呼吸の補助をおこない、過剰にたまつた二酸化炭素を排出し、酸素の取り込みを促す処置です。値は5時間以上継続的にこの処置を行った患者数です。	10件				
人工腎臓、腹膜灌流	人工腎臓は、透析機器(人工腎)を通して血液中の老廃物や余分な水分を取り除き血液を浄化する処置です。腹膜灌流(ふくもくかんりゅう)は、患者の腹膜(腹部の臓器を覆う膜)を介して血液中の余分な水分や老廃物が透析液側に移動する処置です。値はこれらの処置を行った患者数です。	0件				
経管栄養カテーテル交換法	経管栄養カテーテル交換法は、口からの栄養摂取が難しく、胃や食道にカテーテル(細い管状の医療器具)を挿入し、直接栄養を送り込む処置を行っている患者について、そのカテーテルを交換する処置です。値はこの処置を行った患者数です。	0件				

## リハビリテーションの実施状況

(項目の解説)		施設全体	東日本圏内 急性期	東日本圏内 慢性期	東日本圏外 回復期	東日本圏外 慢性期	東日本圏外 慢性期
疾患別リハビリテーション料	患者の疾患や状態に応じたリハビリテーションを行った患者数です。	115件					
心大血管疾患リハビリテーション料	心筋梗塞、狭心症、慢性心不全等の患者に対し、必要な心機能の回復、疾患の再発予防等を図るために行うリハビリテーションです。値はリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
脳血管疾患等リハビリテーション料	脳梗塞、脳出血等の患者に対し、必要な基本動作能力、言語聴覚能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	86件					
運動器リハビリテーション料	脊椎損傷による四肢麻痺、関節拘縮(かんせつこうしゅく:関節の動きが制限された状態)等の患者に対して、必要な基本的動作能力等の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	29件					
呼吸器リハビリテーション料	肺炎、肺腫瘍、慢性の呼吸器疾患等の患者に対し、症状に応じて必要な呼吸訓練等を行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
障害児(者)リハビリテーション料	脳性麻痺、発達障害等の患者に対し、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
がん患者リハビリテーション料	がんの患者に対し、治療の過程で生じた筋力低下、障害等の改善を目的として行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
認知症患者リハビリテーション料	重度の認知症患者に対し、必要な認知機能や社会生活機能の回復を図るために行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
早期リハビリテーション加算(リハビリテーション料)	治療開始後の早期段階(治療開始日から30日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は早期段階のリハビリテーションを行った患者数です。	51件					
初期加算(リハビリテーション料)	治療開始後の初期段階(治療開始日から14日以内)からリハビリテーションを行っていることを示す項目です。値は初期段階からリハビリテーションを行った患者数です。	38件					
摂食機能療法	食べる機能(摂食機能)が落ちている患者に対し、症状に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
リハビリテーション充実加算(回復期 リハビリテーション病棟入院料)	より多くのリハビリテーションを集中的に提供できる病棟であることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件					
体制強化加算(回復期リハビリテーション病棟入院料)	患者の早期の機能回復や退院を促進するために、専門の医師や社会福祉士を配置していることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	43件					
休日リハビリテーション提供体制加算(回復期 リハビリテーション病棟入院料)	休日にも平日同様にリハビリテーションを提供できるような職員配置がなされていることを示す項目です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	0件					
入院時訪問指導加算(リハビリテーション総合計画評価料)	医師、看護師等が、患者が退院後に生活する自宅や施設等を訪問し、その住環境や家族の状況等を踏まえたリハビリテーション実施計画を策定していることを示す項目です。値はこのようにして計画が策定された患者数です。	0件					

(項目の解説)		施設全体	東面3階病 急性期	本館5階病 急性期	東館2階病 回復期	本館3階病 慢性期	本館4階病 慢性期
リハビリテーションを実施した患者の割合	入院患者のうち、疾患や状態に応じたリハビリテーションが実施された患者の割合です。				100.0%		
平均リハビリテーション単位数(1患者1日当たり)	上記の患者に対し行ったリハビリテーションの平均的な量を示す値です。20分実施した場合を1単位とみなします。				7.5単位		
過去1年間の総退院患者数	平成26年7月から平成27年6月までの1年間に、退院した患者の数と、日常生活機能評価に応じた患者の数です。 日常生活機能評価とは、寝返り、起き上がりなど日常生活で行う基本的な動作について、「自分でできる」「できない」を評価する指標です。自力での動作が難しいほど、点数が高くなります。	158人		158人			
うち入院時の日常生活機能評価10点以上の患者数	うち退院時の日常生活機能評価が、入院時に比較して3点以上(※)改善していた患者数 ※回復期リハビリテーション病床入院料1の場合は4点	54人		54人			
		30人		30人			

## 長期療養患者の受入状況

(項目の解説)		施設全体	東面3階病 急性期	本面5階病 急性期	東面2階病 回復期	本面3階病 慢性期	本面4階病 慢性期
療養病棟入院基本料1.2(A~I)	療養病棟は、主として、長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病棟です。値はこうした病棟に入院している患者数です。	41件					
褥瘡評価実施加算(療養病棟入院基本料、有床診療所療養病床入院基本料)	褥瘡(床ずれ)は、寝たきりなどにより、身体の一部が長時間にわたりベッドと接触することで血行が悪くなり、皮膚組織等が壊死する症状です。この項目は、褥瘡が特に生じやすい状態にある患者について、褥瘡の予防や処置の観点から必要な取組を行っていることを示します。値はそのような状態にある患者数です。	22件					
重度褥瘡処置	この項目は重度化した褥瘡に対してケアを行っていることを示しています。値はこのようなケアを行った患者数です。	0件					
重症皮膚潰瘍管理加算	皮膚潰瘍は、皮膚や粘膜が傷ついた際に、糖尿病等の疾患による血行不全等のために傷が治らず、組織が壊死する症状です。この項目は、重度な皮膚潰瘍に対して計画的、継続的なケアを行っていることを示します。値はケアを行った患者数です。	0件					

## 重度の障害児等の受入状況

(項目の解説)		施設全体	東面3階病 急性期	本面5階病 急性期	東面2階病 回復期	本面3階病 慢性期	本面4階病 慢性期
難病等特別入院診療加算	難病患者や感染症患者等の入院を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件					
特殊疾患入院施設管理加算	重度の障害者、難病患者等の入院を多く受け入れている病棟であること(全入院患者の約7割)を示す項目です。値はその患者数です。	27件					
超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	出生時から小児期までに生じた障害により、現在も非常に重症な状態が続く患者を受け入れていることを示す項目です。値はその患者数です。	*					
障害児(者)リハ(再掲)	脳性麻痺、発達障害等の患者に対して、状態に応じて行うリハビリテーションです。値はこのリハビリテーションを行った患者数です。	0件					
強度行動障害入院医療管理加算	知的障害や自閉症等であって、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を繰り返し行う特徴のある患者の入院医療を行っていることを示す項目です。値はその患者数です。	0件					

[TOPへ戻る](#)

#### ◆過去1年間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間

		(項目の解説)					
		施設全体	東臨3階病 棟 急性期	本館5階病 棟 急性期	東館2階病 棟 回復期	本館3階病 棟 慢性期	本館4階病 棟 慢性期
過去1年間に病棟の再編・見直しがあった場合の報告対象期間		平成26年7月1日～平成27年6月30日の期間内に病棟の再編・見直しを行ったことで、過去1年間分の状況を報告することが困難な場合に、平成27年7月1日時点の病棟単位で報告が可能な過去の期間です。	-	-	-	-	-

[TOPへ戻る](#)